

## 青山ブックセンター 本店 (東京都渋谷区)

柳瀬利恵子さん



## 『人として正しいことを』

ダヴ・シードマン、ビル・クリントン(序文)著、近藤隆文訳／海と月社／2940円

これからの時代、何をするかではなく、「HOW=どのようにやるか」の重要さは、誰しも感じるところだと思います。ちまたで話題のブラック企業の存在などを考えると、「人として正しいこと」を追求するのは、絵空事に感じるかもしれません。でも、この本を読めば、必ず実現可能なこととして、一個人としても実践できることを理解できます。

## 『調理場という戦場』

斎須政雄著／幻冬舎文庫／630円

「なりたい自分、目指すべき目標を見つけて、後は必死に努力するのみ。そうすれば、結果がついてくる」。頭では分かっていても、実践するのはとても難しいでしょう。それを必死に実行する斎須さんの人生、経験から生まれる熱い言葉からは、たくさんの勇気をもらえます。



## 文苑堂書店 福田本店 (富山県高岡市)

藤井莊平さん



## 『人を伸ばす力』

エドワード・L・デシ、リチャード・フラスト著、桜井茂男訳／新曜社／2520円

子育て中や、仕事を進める時にいつも心に引っかかっていた疑問、「人はどのように伸びていくのか」「どのようにすれば伸びるのか」を体系的に、理論的に、基本的な考え方を書いています。人を育てる立場の人、親として子育て中の人に、教育に関わる人にオススメです。

小西敏史さん

## 『甲陽軍鑑』

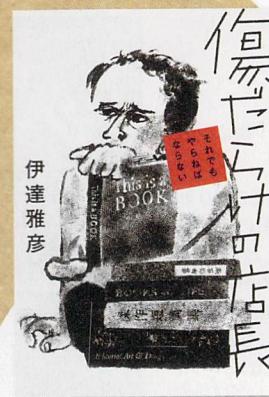
吉田 豊編、訳／徳間書店／2100円

正直、興味本位で読んでみました。もともとは戦国時代に実在した甲斐国・武田氏の戦略や戦術などを記した軍学書ですが、現代社会で戦うビジネスパーソンにも相通ずるところが多くあると感じました。好き嫌いがはっきり出ると思いながらも今回オススメさせていただきます。



## 紀伊國屋書店 新宿本店 (東京都新宿区)

竹添嘉子さん



## 『傷だらけの店長』

伊達雅彦著／PARCO出版／1365円

書店員である私には、胸が痛すぎる話だ。店長の本への愛が、報われぬ(少なくとも目に見える形では)努力が、心に響く。彼の仕事は、書店員だけでなく、職人肌で仕事をするすべての人に通じるだろう。もちろんハッピーエンドではないけれど、「仕事」というものを、大いに考えさせられる1冊。

## 『経営を見る眼』

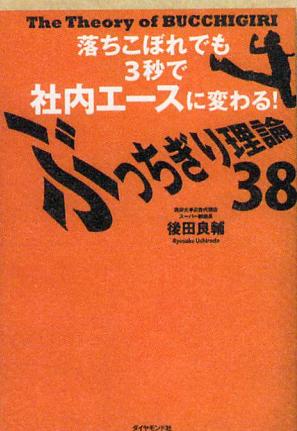
伊丹敬之著／東洋経済新報社／1680円

30代にぴったりの経営の入門書。大なり小なり、グループのリーダーとして働く年代に、日々の仕事の意味を考えさせてくれる。著名な学者である著者だが、この本はすっきりとしてとても読みやすい。私が心に響いたのは、「当たり前スタンダード」という考え方。人として当たり前のことを、当たり前にやる。ビジネスシーンだけでなく、生き方を振り返らせてくれる。



## 有隣堂 厚木店 (神奈川県厚木市)

佐伯敦子さん



## 『ぶつちぎり理論 38』

後田良輔著／ダイヤモンド社／1500円

“成功することよりも失敗しないことを考えろ”。ビジネスパーソンの世界は、本当に“引き算”的世界で、組織の中で失敗しないための理論が分かりやすく書かれていてとても勉強になりました。人生のタスキをうまく次の人に渡せる、そんな人になりたいです。